



『強風・大雨に対する事前対策について』

1. 水稻

- ・茎葉からの水分蒸散の増加による葉の脱水や風による茎葉の損傷等の対策として、用水の確保ができる地域では、風の強い期間中は出来るだけ深水を保って稲体の振動や脱水を防止する。
- ・冠水の恐れのある地域では、速やかに排水ができるよう排水路の掃除、補修を行う。

2. 大豆

- ・ほ場内に明渠を設置し、速やかな排水ができるようにする。

3. 果樹

- ・ぶどうやなしでは、棚やトンネルメッシュの点検を行い、傷んだ部分を補強する。隅柱や周囲柱の控え線の地際部は、腐食しやすいので入念に点検する。
- ・過剰な雨水を排出するため、園内やほ場周囲に排水路を設ける。排水路を整備しているほ場では、速やかに排水できるように雑草や土砂等の障害物を取り除く。
- ・表土の流亡の恐れのある園地では、敷きワラ（敷草）をする。また、法面の崩壊が心配される場合は、ビニルシート等の敷設により保護する。
- ・施設管理については、**7 施設管理共通**を参照。

4. 野菜

①施設野菜

- ・播種箱や鉢苗等の移動できる苗は、納屋等の安全な場所に移動する。
- ・施設管理については、**7 施設管理共通**を参照。

②露地野菜

ア 共通

- ・播種直後のものは、降雨による種子の露出を防ぐためにビニルや寒冷紗等で被覆する。
- ・幼苗期のものは、台風前に土寄せや土入れを行って、株の揺れを防ぐ。
- ・ほ場周囲に排水路を設ける。すでに排水路を整備している場合は、速やかに排水できるように雑草や土砂等の障害物を取り除く。

イ 果菜類

- ・支柱の補強をするとともに、風速が強く支柱が耐えられないと予想される場合は、事前に誘引ネットやテープを切って、畝の上に倒す。さらに、上から防風網や寒冷紗等で押さえ、動かないように固定し、台風の通過後に復元する。
- ・ほ場周辺に防風ネット又は防風垣を設置する。
- ・収穫間近の果実は、多少若くても収穫しておく。
- ・ほ場周囲に排水路を設ける。すでに排水路を整備しているほ場では、速やかに排水できるように雑草や土砂等の障害物を取り除く。
- ・病害防除対策として殺菌剤を散布する。

5. 花き

- ①施設花き（きく、ばら、カーネーションなど）
 - ・施設管理については**7 施設管理共通**を参照。
- ②露地花き（きく、りんどうなど）
 - ・支柱やネットのゆるみを直し、十分に補強する。
 - ・収穫中の切り花は、早めに収穫をしておく。
 - ・ほ場周辺に防風ネットを設置し、点検、整備を行う。
 - ・浸水に備え、排水溝の整備や揚水ポンプを設置し強制排水できるようにしておく。
 - ・ネット上げの作業が遅れている場合は、所定の位置までネットを上げておく。

6. 畜産

①糞乾燥ハウス、パイプ牛舎等

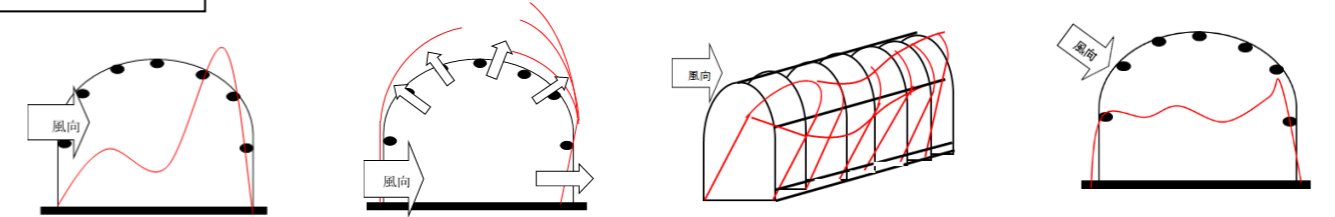
- ・強風の被害を受けやすいので、フィルムの緩みやハウスバンドの点検、締め直しを行う。

7. 施設管理共通

- ・施設内に風が入らないように破損部の補修を行うとともに、筋交いや取り付け金具の締め直し、補強の柱を取り付けて施設の強度を高める。
- ・パイプの基部が浸水でゆるくならないように、ハウス周囲に排水溝を設ける。
- ・被覆フィルムが緩んでいると強風であおられて被害が起こりやすいので、ハウスバンドの締め直しや側杭の補強を行う。
- ・出入口、張り出し部分等は、杭又はロープ等で完全に固定する。
- ・換気扇のある大型ハウスや連棟ハウスは、出入口を密閉して換気扇を稼働させ、施設内を負圧にし、耐風性を向上させる。
- ・強風により、資材等が飛来して被覆資材が破損しないように、施設周辺を清掃しておく。
- ・雨よけハウス等はサイドビニルを下ろし、妻部分も張って風が入らないようにする。
- ・雨よけハウス等は状況によってはビニルを取り除く。

施設園芸（パイプハウス）の台風被害防止対策

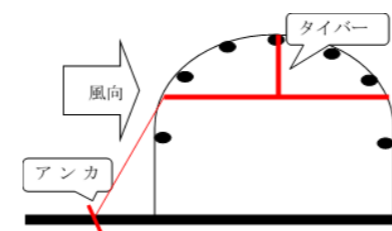
被害の様子



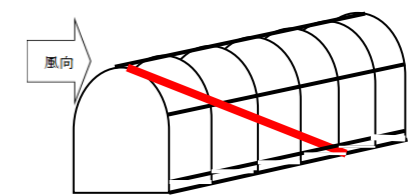
- 1. 風上側の肩部分から屋根にかけて押しつぶされた状態になる
- 2. 下から吹き上がったようにパイプが変形する
- 3. 妻面が奥行き方向に倒壊する
- 4. 真上から屋根が押しつぶされたように陥没する

1. タイバーやX型による肩部の補強、アーチ構造の骨材の組み込み 等

2. パッカーやスプリングでの補強、基礎部分の補強



3. 筋交いの設置。ただし、奥行き方面には効果があるが、横風には効果が無い。



4. 風上側に強風を弱めるための防風ネット等を設置する。